

「桑名石取祭の祭車行事」が、全国の国指定重要無形民俗文化財33件の祭礼行事で構成する「山・鉦・屋台行事」としてユネスコ無形文化財に登録決定しました。



遺産 登録決定!

世界の宝に

「桑名石取祭の祭車行事」は、文化庁からユネスコ無形文化遺産に登録提案され、平成28年10月31日に、ユネスコの評価機関から登録の勧告を受けました。その後、11月30日(日本時間12月1日未明)にエチオピアの首都アディスアベバで開催されたユネスコ無形文化遺産保護条約第11回政府間委員会で「山・鉦・屋台行事」が審議され、登録が決定しました。



◆桑名市長 伊藤 徳宇



このユネスコ無形文化遺産への正式な登録決定で、桑名石取祭がいよいよ世界に認められた祭りとなり、「桑名の宝が世界の宝に」なることから大変喜ばしいことであると感じています。これも一重に、保存会の方々をはじめ、関係者、また市民の皆さまが、桑名の歴史ある「石取祭」を大切に保存・伝承に尽力されてこられた賜物であると感じしお祝い申し上げます。

今後は、ユネスコの無形文化遺産に登録されたことを起爆剤として、外国人の方々を含む観光客誘致を一層進めていきたいと考えております。

◆桑名石取祭保存会 会長 伊藤 守さん

私たちの祭りである石取祭という町衆の文化が日本の文化として世界に認められ大変光栄に思います。また、世界に広められたことを誇りに思います。皆さまの協力や支えがあったからこそ登録されたと思っています。誠にありがとうございます。この祭りを桑名市にも大いに発信していただき、海外の人を含め、多くの人に見に来ていただけるよう行政とともにおもてなしを考えていきます。

今後は、後継者不足の解消に取り組み、祭車の保存・維持にも努めて、しっかりと伝統を受け継いでいきたいと思っております。





日本一やかましい祭
桑名石取祭の祭車行事

ユネスコ無形文化

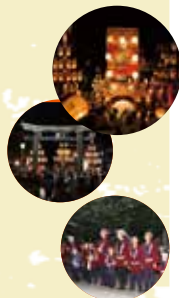
— 桑名の宝が

登録が決まった瞬間、石取会館に集まった関係者の人たちから歓喜の声が上がり、万歳三唱をするなどしてお祝いしました。これまで、地域の皆さんに愛されてきた「桑名石取祭」が世界の宝として認められたことにより、世界の皆さんに親しまれることになります。

石取祭は、江戸時代初期に始まったといわれ、桑名城下の町人や藩士が楽しみにしていた夏の祭りです。平成19年3月に国指定重要無形民俗文化財となりました。祭車と呼ばれる山車は43台あり、これほどの山車が一堂に会する祭りは全国的にも非常に珍しく、国指定重要無形民俗文化財のなかでは日本最多を誇ります。

石取祭とは…

毎年8月第一日曜日に「本楽」、その前日に「試楽」が行われます。試楽の日の午前零時の「叩き出し」に始まり、本楽の日の深夜まで丸二日間行われ、祭車数十台が鉦や太鼓を盛大に打ち鳴らしながら市内を練り歩きます。漆塗、蒔絵、象嵌、螺鈿、透かし彫り、西陣織などで装飾した豪華絢爛に装飾した祭車も見どころです。



今までやってきた人たちのことがユネスコ登録という形で認められ、ありがたく思います。石取祭がこれからも変わらず、大事なものを大切にしながらみんなで楽しくやっていたいけるよう、青年会の皆さんにも伝え、次に継がせていきたいです。



青年連盟 会長
 森博臣さん

私も2歳から参加している祭りが登録されたこと知り、驚きました。学校でもみんなで喜びました。これを機会に世界の人たちにも知ってもらえるとうれしいです。また、長い歴史のある石取祭をたくさんの人に見に来てほしいです。



石取祭に参加している小学3年生
 松山莉子さん